



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

5月の行事予定

Table with 5 columns: Day, Event, Status, Location, and Notes. Includes events like 全校朝会, 金曜の授業, 憲法記念日, etc.

校風とも言えるそれは、この学校が学ぶ姿勢について最も厳しさを要求する学校であり、師弟ともに学び合う中に、互いのありべき姿を探り続けてきたことだと、私は感じている。そのような学校であるがゆえに、また指導する先生方の姿勢に感じ取ることが出来る。

本校百二十三年の歴史の中で、ここで学んだ若者たちが生きた時代の様相はそれぞれ異なるが、いつの時代にも脈々と流れて受け継がれ、学校を支えてきたものがある。私は、それを生徒諸君の学ぶ姿の中に、また指導する先生方の姿勢に感じ取ることが出来る。

また、昭和五十四年の対面式では、当時の生徒会長が「鶴丸は高等学校である」と挨拶して一同を驚かせたという。「鶴丸は勉強するところ」の意味を大学入試に合格するだけの勉強などと矮小化してはならぬとの気概を込めた宣言であったと当時を知る本校職員の随想に記されている。

この言葉はこうして鶴丸高校をシンボライズする誇り高き不滅の檄として受け継がれてきたのである。

対面式で第二代会長は短く、「鶴丸は勉強するところである」と述べた。在校生は「この言葉を当然と受けた。在校生は、新入生は鶴丸生としての自覚と責任と喜びを感じたという。」

今年対面式で、大内山生徒会長が新入生に向かって「鶴丸は勉強するところである。そして何を学ぶのか、何のために学ぶのか、各人で考えてほしい」と述べた。

昭和二十四年、本校は加治屋町校舎（現鹿児島中央高校校舎）で新制鶴丸高校として再出発した。翌年四月に校庭で行われた対面式で第二代会長は短く、「鶴丸は勉強するところである」と述べた。在校生は「この言葉を当然と受けた。在校生は、新入生は鶴丸生としての自覚と責任と喜びを感じたという。」

鶴丸に脈々として受け継がれてきたもの 学校長 月野 功



左は対面式の様子。昭和二十五年、この場で「鶴丸は勉強するところである」の名言が生まれました。

に、どの時代にも学ぶことに一途な若者が本校に集ってきたのである。その意味で、級友、先輩・後輩といった本校生徒の繋がり温かく、しかも切磋琢磨するものでなければならぬ。

そして、学ぶ意義を考える際の指針となるものが、鶴丸の For others の精神である。自分は何のために、何を学ぼうとしているのか、各人が時には立ち止まって深く考えてほしい。本校で学ぶ生徒諸君には優れた知性とともに、豊かな情緒や人間性を備えていくことが期待されている。鶴丸で過ごす「かへらざる三年」の間に、この期待に真摯な態度で応えていくことが、新しい、さらに洗練された鶴丸の校風を生み、これからの時代に生きる鶴丸の姿を形づくっていくのである。

生徒諸君の「ひたすらに己を彫む」努力を期待している。

いざ挑まん、鶴丸に 第一学年主任 小宮 正裕

降りしきる雨の中、肅々と挙行された入学式。満開の桜咲く、素晴らしき快晴の日に行われた知覧への遠足。前日まで心配されたがなんと持ちこたえてくれた天気のもと、熱戦が繰り広げられた甲鶴戦。入学してわずか二週間余の間に鶴丸高校第七十一期生は、早くもこれら大きな行事を興奮や感動と共に体験することになった。

さて、鶴丸高校合格を手にした諸君は、入学まで多くの方に祝福され、喜びに満ちあふれた幸せな時をすごしてきたはずである。一方でそれぞれの中学校では成績上位であり、おそらくは学校の中心となって活動してきたであろう者達が集まる中で過ごす生活が始まって、緊張と不安が入り乱れる中、過密とも言えるスケジュールを何とかこなして二週間経った。無我夢中だったという人が多いのではないかと、ここで希望を胸に入學してきた諸君に、鶴丸の現実が少しづつ見えてきた今、これからどのように鶴丸の生活を送っていくことになるのか改めて考えて欲しい。

この学校ではどんなに大きな夢を語っても決して笑われるようなことがない、馬鹿にする人もいない、だから臆することなく自分の夢を求め、挑んで欲しい。私は新入生オリエンテーションでこのようなことを諸君に伝えた。このことは一見素敵なことのようにみえるが、現実の生活が始まるとそれを実行するのがそれほど簡単なことではないことに気づかされてしまう。鶴丸が諸君に要求するレベルの高さ、量の多さに圧倒されるが多々あるからだ。今まで自分が体験したことのないことが日々押し寄せてくる。それらを何とかこなしながら流されて暮らしていくのが精一杯になってしまおうと、いつしか自分の夢を語ることも忘れてしまいかねない。

授業が始まってまだ僅かではあるが、覚えることを中心とする学習をしてきた人たちにとっては、考えることの多さに驚いているのではないかと。形は少しずつ違えども学びの場では勿論、鶴丸の生活では考えなければ分らない、できないことが多く提示される。考えることにより新たな疑問がわき、さらに先を学ぶ意欲が湧き起る。

科目の勉強だけでは足らずに、世の中の仕組み、出来事を知り、理解したくなる。そして更にまた学びたくなる。こうして少しずつ自分の人生を考え、夢を持つに至るのかもしれない。

時には既成の事実や、更には伝統などにも疑いを持つてみる必要があるかも知れない。そのときはどうかその気持ちを隠したり、恥じたりしないで欲しい。じっくりと考えて、大いに周りの人々と議論して欲しい。学校で学ぶこと、それらが正しいことばかりであるかどうかは、誰にも分からないのだ。正解が得られなくてもいい。考えることにより新たな自分が形成され、次の課題を探すことになっていく。常に受け身の姿勢でいれば多少は楽かも知れないが、人生を楽しむことにはならないのだ。

どうか臆することなく、鶴丸に挑んで欲しい。水の流れるも激めば腐る、という言葉がある。伝統ある鶴丸に諸君が新しい流れを起していき、鶴丸は衰えることなく更に発展し、諸君にとって素晴らしい場であり続けることができるのだ。三年間は長いようでも短い。挑み続けることで、きっとその三年間が諸君にとって素晴らしいものになる筈だから。鶴丸への挑戦が実りあるものにならんとを。

「言葉を大切に」 創立記念講演会



4月7日、第71期生が高校生活のスタートを切りました。



野球場での全校応援の様子。多くの保護者や卒業生の方が声援を送ってくださいました。ありがとうございました。

四月二十一日、第四十七回 甲南・鶴丸スポーツ交歓会（通称 甲鶴戦）が県立鴨池運動公園で開催された。今年のキャッチフレーズは、25Rの山下義哲君が作成した「轍（わだち）」であった。どの会場でも両校生徒が熱戦を繰り広げ、今年も大いに盛り上がる大会となった。結果は、甲南に総合優勝を譲ることとなったが、どの競技も白熱した接戦で、まさに「惜敗」ばかりであった。生徒は「来年こそは」と決意を新たにしていた。

甲鶴戦 轍 魅せる 青春の軌跡



四月十九日、創立百二十三年を迎えた本校体育館で、記念式典および記念講演会が行われた。記念講演会では本校の三十二回生で東京鶴丸会会長でもある榎田卓央氏（横浜市立丸山台中学校校長）が、「言葉を大切に」をテーマに「AI時代を生きていく皆さんへ」をテーマとして講演された。元テレビ局アナウンサーとしての経験も交え、現代社会の様相と、これからの時代を生きていく生徒達にとってコミュニケーション能力が重要であることについて、分かりやすく話され、講演後は生徒との間で活発な質疑応答も行われた。